

平成23年度前期学校評価アンケートの考察と後期の展望

1 基本的な生活習慣の育成

昨年度保護者には「わが家のやくそくはつくりましたか」という質問項目で評価を行い、2年間でかなりの成果をあげた。そこで本年度は「わが家のやくそく」を守っている、ということで評価を行ったが、肯定的な評価は73%であった上に、できていないと感じるものが20%もあった。また教職員評価では、家庭生活のルールづくりに児童や家庭に働きかけをしているという割合は60%に満たなかった。児童評価でも肯定的な評価は70%で、十分とは言えない。やくそくの定着、習慣化の両面について、まず職員から地道な啓発を続けて行かなくてはならない。

早寝早起き、あいさつについては保護者、教職員8割を超え、定着はしているが、児童評価であいさつ、やさしいことばについてできていないと感じるものが2割以上ある。しなくてはならないと自覚していると言えるので、児童を励まし続けていきたい。

2 学力の向上

学習や読書の時間を決めているという評価項目では、保護者、児童とも肯定意見は5割強で、定着とはほど遠い結果で、昨年後期と比べてもほとんど変化がない。判断力、思考力の育成に読書は欠かせない。また、中学校では必須の学習習慣の定着のためにも小学校での学習時間の確保は欠かせない。教職員は家庭行う学習や読書の課題を定期的に出し、習慣化を図っていく必要がある。また家庭に「読書する姿を親が見せる」「子どもとともに学ぶ」等、協力をいただけるように啓発に努めなくてはならない。

授業を楽しんでいるという評価では、保護者、児童ともに22年度後期に比べ、5ポイント向上している。職員も分かりやすい授業づくりに努めている姿が窺える。

今後は分かった、できた喜びと成長が確かめられる授業づくりを学力向上推進リーダーとともにつくっていきたい。

3 安心・安全な学校

学校の安全環境については保護者から高い評価をいただいた。保護者の協力の花壇整備等の賜物でもある。このよき伝統は大切にしていきたい。

保護者評価項目であった「職員はいじめや非行をなくすために個々の子に配慮したり指導をしたりしている」は22年度後期と変わらず、「分からない」という回答が2割で、学校から情報を発信してきたのだが、十分に伝わっていない。23年度前期、不登校やいじめの認知件数は「0」で、昨年度よりは実態は改善されて事実はあるが、一層個に応じた指導の充実を図りたい。またスクールカウンセラーや市の教育相談の利用についても情報を伝えていきたい。

児童は、安全に気をつけて右側歩行をしていると感じているが、前期はけがが多かった。落ち着いて学習や生活ができるように指導を重ねて、後期はけがを減らしていきたい。